

平成29年度 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会

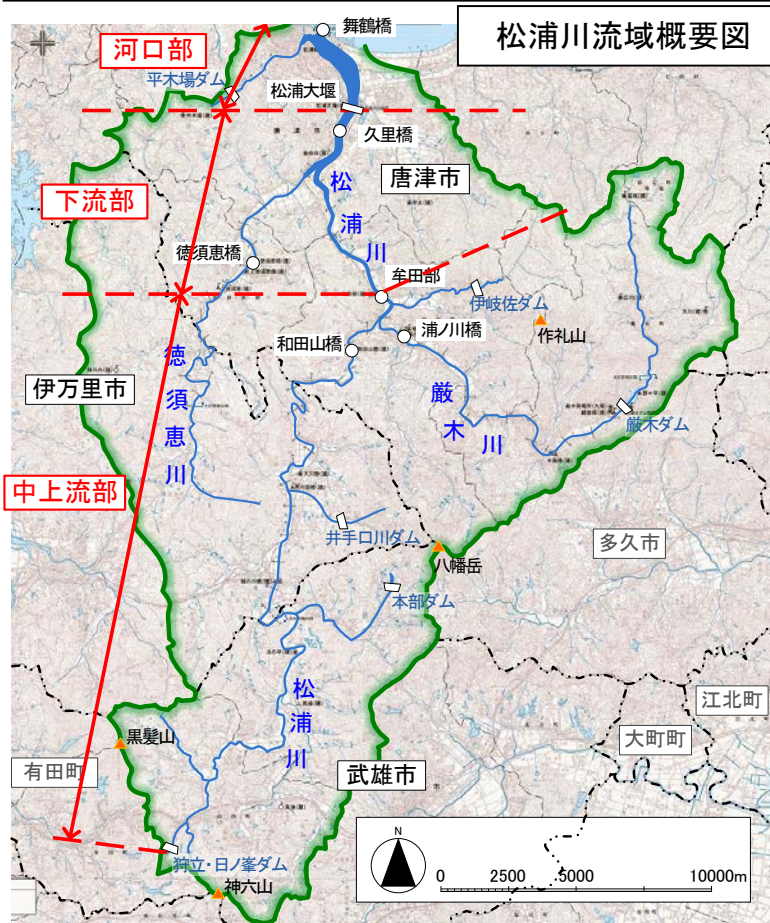
まつ うら

松浦川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 松浦川流域の概要〔松浦川の概要と特徴〕



■各区間の特徴

＜中上流部（源流から松浦大堰湛水区間上流端まで）＞

- ・上流部（源流付近～国管理区間上流端）は、黒髪山県立自然公園をはじめ、**川古のクス**など**天然記念物**が存在する自然豊かな地域であり、森林・水辺の憩いの場として、多くの観光客に利用されている。
- ・中流部（国管理区間上流端～松浦大堰湛水区間上流端）は、**桃川親水公園**などで**水辺の楽校が整備**され、自然体験や環境学習や夏祭り等の各種イベントに利用されている。
- ・桃川親水公園や駒鳴地区などでは、地域の方々の取り組みにより、**数多くのホテルが見られる**ようになっている。

＜下流部（松浦大堰湛水区間）＞

- ・**流域最大の人口を有する唐津市街地**を緩やかに流下し、広い河川空間は緑地公園や運動公園、サイクリングロードなどに日常的に利用されている。
- ・湛水区間の河岸にはメダケ、オギ群落が繁茂し、徳須恵川合流点付近では**ヨシ、マコモ**などからなる**湿地が形成**され、サギ類やメダカなどが生息している。

＜河口部（松浦大堰から河口まで）＞

- ・観光都市唐津の中心部を貫流し、**広大な水面は唐津城とあいまって唐津を代表する景勝空間**となっており、また近くに**玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原**があるなど、住民や観光客に広く愛されている。
- ・**広大な砂質干潟が形成**され、ハクセンシオマネキ等の貴重な生物の生息・生育・繁殖場となっている。

【松浦川の概要】

- ・流域面積：446km²
- ・幹川流路延長：47km
- ・流域内人口：約9.4万人
- ・流域内市町村：唐津市、伊万里市、武雄市
（平成22年国勢調査）

1. 松浦川流域の概要〔松浦川の利用状況〕

＜松浦川の利用状況＞

- ◆松浦川は、桃川親水公園、カッパの里、町切水車公園、アザメの瀬などの川や自然にふれあうことの出来る施設、場所が多くあり、河川空間を活用した夏休みリバースクール、カヌー体験や自然体験会、ホタルの鑑賞など、住民が参加するイベントなどを通して多岐に利用されている。
- ◆松浦川では、住民団体や小中学生による生物調査や水質調査等の環境学習活動の場として利用されている。
- ◆松浦川の堤防や高水敷では、散策やスポーツなどの日常的な利用のほか、花火大会等の地域交流、伝統行事の場等としても利用されている。下流湛水部では、水面でのボート利用も盛んである。



桃川親水公園（伊万里市）



カッパの里（唐津市）



アザメの瀬（唐津市）



夏休みリバースクール（唐津市）



ホタルの鑑賞（伊万里市）



水生生物調査（唐津市）



散策（唐津市）



花火大会（唐津市）

1. 松浦川流域の概要〔松浦川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞(松浦川水系河川整備計画抜粋)

- ◆ 多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう、瀬・淵を有する流れや水際環境、上下流の縦断的な生物の生息・生育環境を保全し、松浦川における動植物の多様性を確保する。
- ◆ 河川空間の利用に関しては、流域の人々の生活の基盤や歴史、風土を形成してきた松浦川の恵みを生かしつつ、水辺空間を利用したスポーツ・レジャー利用、自然とのふれあいや環境学習の場の整備・保全を目指す。
- ◆ 河川を通じた地域間交流等を推進し、川と自然とふれあえる親しみやすい河川空間の維持・整備を目指す。
- ◆ 良好な景観の維持・形成については、松浦川の流れが織りなす良好な河川景観の保全を図るとともに、中上流部は田園風景と調和した河川景観、河口部は歴史・文化との関わりが深い唐津城と調和した河川景観の保全に努める。

1. 松浦川流域の概要〔松浦川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、事業完了している駒鳴地区の水辺整備の事業効果を含め、継続整備する予定の河口部地区の水辺整備について事業評価(再評価)に諮るものである。

区 分	箇所名	事業期間	備 考
自然再生	アザメ ^せ の瀬地区	平成15年度～平成22年度	完了箇所 (報告済み)
水辺整備	わただ 和多田地区	平成19年度	完了箇所 (報告済み)
	なかやま 中山地区	平成20年度～平成21年度	完了箇所 (報告済み)
	もものかわ 桃川地区	平成21年度	完了箇所 (報告済み)
	こまなき 駒鳴地区	平成25年度～平成27年度	完了箇所
	かこうぶ 河口部地区	平成27年度～平成34年度	継続箇所
松浦川総合水系環境整備事業		平成15年度～平成34年度	



1. 松浦川流域の概要〔完了箇所〕

<完了箇所の概要>

(1) 駒鳴地区

- ◆河岸及び通路などが整備され、安全な水辺利用が可能となったことから、**環境学習、川遊び、ホタル観察、フットパス体験会などに利用**されており、事業の効果が発現している。現在の良い利用状況から現時点において改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- ◆整備完了後は伊万里市、地域住民により、清掃などの維持管理が行われており、引き続き適切な維持管理に努めていく。
- ◆事業実施による周辺環境の変化に関して問題及び指摘は特にない。また、社会経済情勢についても大きな変化はみられない。



【概要】

位置	松浦川20.0k 付近
事業区分	水辺整備
整備内容	管理用通路、階段護岸、盛土
事業費	約1.2億円
事業期間	平成25年度～平成27年度

【整備後の利用状況】



【駒鳴地区の利用状況】

- ◆駒鳴地区の水辺では、夏には子どもたちの水生生物調査や川遊びなどで利用されている。
- ◆駒鳴地区周辺は、伊万里フットパス駒鳴コースに指定され、フットパス体験会も開催されている。



2. 事業の必要性等〔松浦川総合水系環境整備事業の概要〕

<継続箇所の概要(河口部地区)>

(1) 事業の必要性等

◆河口部地区は、周辺住民や観光客にゆとりと潤いを与えることを目的とした“松浦河畔緑地”や既に整備が完了している和多田地区の親水施設に隣接している。

多くの家族連れや観光客が訪れる場所であるが、川沿いに家屋などが立ち並び、川沿いの通路もなく、水辺に近づきにくい状況となっている。

◆このため、地域や期成会などから河川利用時の利便性や水辺に近づく際の安全性を確保するための整備が望まれている。

【現地の状況】



川沿いに家屋が建ち並び、水辺に近づきにくい



2. 事業の必要性等〔松浦川総合水系環境整備事業の概要〕

(2) 事業の概要・目的

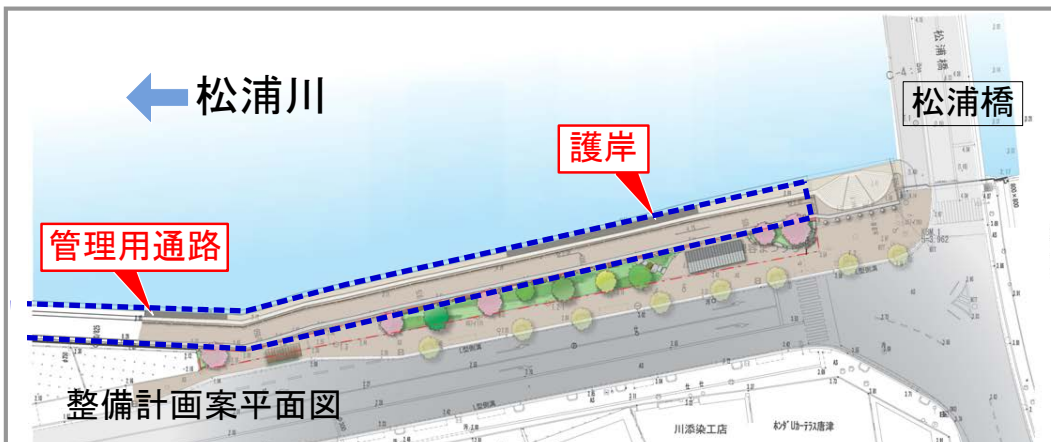
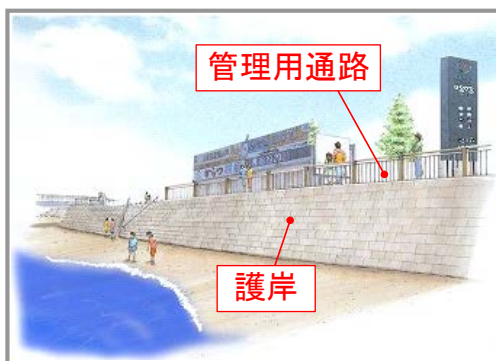
- ◆唐津市が主体となって設置した「唐津みなとまちづくり懇話会」において、松浦川河口部周辺は地域住民や観光客にゆとりと潤いをもたらす“水辺の回廊ゾーン”として位置付けられ、下流部では“松浦河畔緑地”として遊歩道や緑地整備が進められており、今後上流側への延伸が予定されている。
- ◆国においては、唐津市における緑地整備にあわせ、河川利用者の安全性の向上、河川の巡視・維持管理の円滑化を図るため、下流遊歩道に接続して管理用通路、護岸等を整備する。

【概要】

位置	松浦川 1.0k付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、護岸工、モニタリング調査等
事業費	約6.0億円
整備完了年	平成31年度
事業期間	平成27年度～平成34年度

【工程表】

項目	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
管理用通路								
護岸工								
測量設計等								
モニタリング調査等								



2. 事業の必要性等〔松浦川総合水系環境整備事業の概要〕

(3) 事業の推進体制

- ◆唐津市では、松浦川河口部周辺について、江戸期から明治初期には“唐の津”として栄えた歴史ある地区でもあり、ふるさとのシンボルである唐津城や虹ノ松原などの独特の景観を活かした水辺のまちづくりを目指すこととしている。
- ◆平成16年に市民協働の新しいみなとまちづくりを考える「唐津みなとまちづくり懇話会」を設立し、松浦川河口部を含む唐津港一帯の将来像をまとめた地域素案を作成し、賑わいのあるまちづくりを目指す取り組みが、地域住民や企業、行政の連携によって進められている。
- ◆整備箇所においては、**平成26年11月に「松浦川河口部水辺整備検討会」を設立し、地域の活性化に資する具体的な利活用方策、利用者の安全や維持管理等に関する協議を行っており**、引き続き地域の協力体制が見込まれる。

「松浦川河口部水辺整備検討会」開催状況

項目	実施日	主な議題
第1回検討会	平成26年 11月26日	事業趣旨・概要説明、意見交換
第2回検討会	平成27年 1月19日	かわまちづくり計画の策定、意見交換
かわまちづくり 計画登録申請	平成27年 1月28日	かわまちづくり計画登録申請書を国土交通省に提出
かわまちづくり 計画登録	平成27年 3月30日	かわまちづくり計画として登録
第3回検討会	平成27年 11月26日	調査結果・護岸整備計画・環境保全対策方針等の説明、 整備計画（主に護岸）についての意見交換
第4回検討会	平成28年 2月16日	整備計画（主に護岸平面形）についての意見交換
第5回検討会	平成28年 11月21日	護岸等の基本設計図案についての意見交換
第6回検討会	平成29年 2月22日	決定した基本設計図案に基づく全体整備計画及び施設毎 の具体的整備案についての意見交換



検討会開催状況

3. 前回評価時からの変化

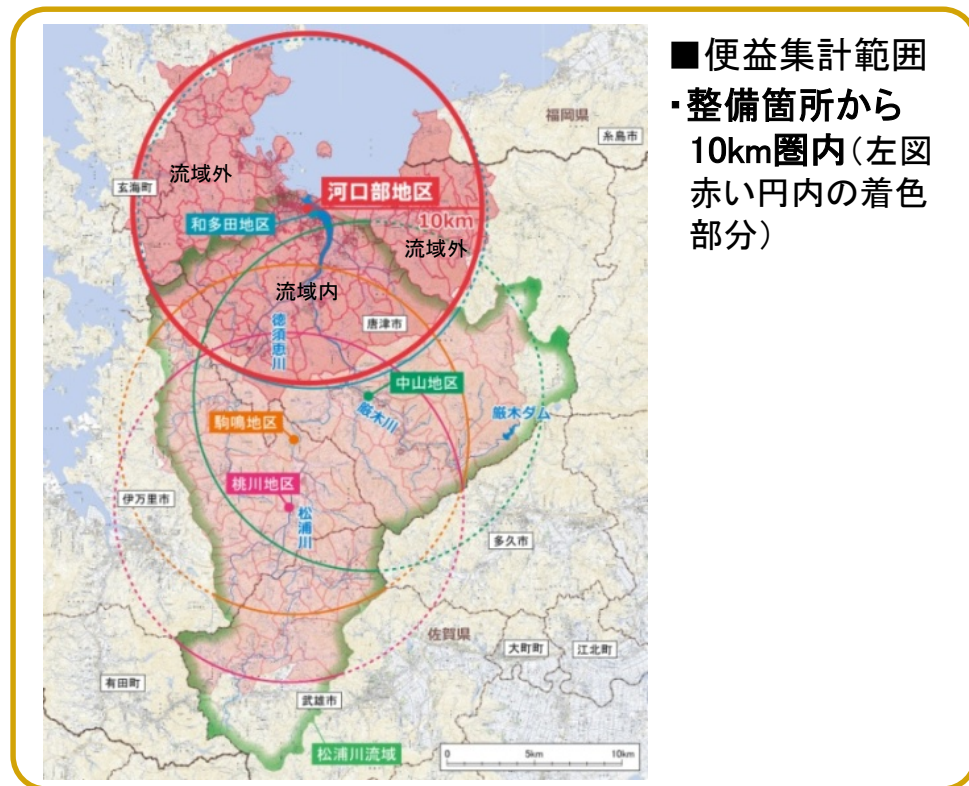
項 目	前回評価時 (平成26年度)	今回評価時 (平成29年度)	変更理由
総事業費	約15.5億円 【自然再生】 ・アザメの瀬 : 約8.0億円 【水辺整備】 ・和多田地区 : 約0.3億円 ・中山地区 : 約0.9億円 ・桃川地区 : 約0.5億円 ・駒鳴地区 : 約1.2億円 ・河口部地区 : 約4.6億円	約16.9億円 【自然再生】 ・アザメの瀬 : 約8.0億円 【水辺整備】 ・和多田地区 : 約0.3億円 ・中山地区 : 約0.9億円 ・桃川地区 : 約0.5億円 ・駒鳴地区 : 約1.2億円 ・河口部地区 : 約6.0億円	・河口部地区の便益集計 範囲の見直しに伴う変更 ・河口部地区の事業費見 直しに伴う変更
整備完了年	平成29年度	平成31年度	
B/C	2.6	2.9	
B(便益)	約56.0億円	約75.5億円	
C(費用)	約21.2億円	約25.9億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

3. 前回評価時からの変化

(1)河口部地区便益集計範囲の見直し

- ・ 河口部地区水辺整備の便益集計範囲について、アンケート調査の結果から流域内外ともに認知率が約9割と高く、さらに流域内外からの利便性が良い実態を踏まえ、整備箇所の「半径10km圏内かつ流域内」から「半径10km圏内」とした。



(2) 河口部地区事業費の見直し

- ・ 河口部地区水辺整備検討会で協議した結果、環境対策として、仮締切土への大型土のう設置や施工後の仮締切土の全撤去を実施することとなった。
- ・ また、地質調査の結果、基礎地盤線が想定よりも深く、鋼矢板の根入れ長に変更が生じたため増となった。

■前回(平成26年度)再評価

・河口部地区事業費：約4.6億円



■ 今回

・河口部地区事業費：約6.0億円（約1.4億円増）

4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

<費用対効果等>

		事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B／C
全事業	完了事業	16.9億円	—	75.5億円	25.9億円	2.9
	自然再生	10.9億円	—	60.3億円	19.9億円	3.0
	アザメの瀬地区	8.0億円	—	39.1億円	15.2億円	2.6
	アザメの瀬地区	8.0億円	高水敷切り下げ、管理用通路	39.1億円	15.2億円	2.6
	水辺整備	2.9億円	—	21.3億円	4.7億円	4.5
	和多田地区	0.3億円	階段護岸	8.1億円	0.4億円	19.5
	中山地区	0.9億円	管理用通路、管理用階段、護岸	3.9億円	1.7億円	2.3
	桃川地区	0.5億円	管理用通路、樹木伐採	3.4億円	1.0億円	3.5
	駒鳴地区	1.2億円	管理用通路、階段護岸、盛土	5.9億円	1.6億円	3.6
	継続事業	6.0億円	—	15.2億円	6.0億円	2.5
	水辺整備	6.0億円	—	15.2億円	6.0億円	2.5
	河口部地区	6.0億円	管理用通路、護岸、モニタリング調査等	15.2億円	6.0億円	2.5

	アンケート 実施時期	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
河口部地区	平成25年度	1,000	211	半径10km圏内	23,179	275
駒鳴地区	平成28年度	1,336	199	半径10km圏内(かつ流域内)	4,395	484

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆河口部地区では、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成31年度に整備を完成させる予定である。平成32年度以降は、モニタリング調査等を実施し、平成34年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆河口部地区では、唐津市、国、地域住民等より構成される「松浦川河口部水辺整備検討会」において、更なる利活用や維持管理の役割分担等について議論を重ねており、順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆河口部地区の整備内容は、「松浦川河口部水辺整備検討会」で議論を重ね、地域が一体となって河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針(原案)

- ◆ 松浦川水系では、自然再生や水辺整備などを通し、松浦川特有の景観を生かした川づくりを目指している。
- ◆ 唐津市では、ふるさとのシンボルである唐津城や虹の松原などの独特の景観を活かした水辺のまちづくりを目指している。
- ◆ 河口部地区では河川内の安全保持、適正な河川利用や環境の保全等を学習する場の創出を目的とし護岸等の整備を行っており、唐津市からも周辺のまちづくりの取り組みに合わせた、水辺空間の整備が強く要望されている。また、「松浦川河口部水辺整備検討会」などを通して、かわづくりを軸とした地域活性化に資する更なる利用活用方策や維持管理の役割分担などについて協議を行っており、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 費用対便益 (B/C) については、十分高い値である。
- ◆ 駒鳴地区については事業完了とし必要に応じフォローアップを行っていく。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。